

WCRP

8

2024
August

No. 538

World Conference of Religions for Peace Japan



国際会合「平和のためのAI倫理」署名式の参加者たち（広島平和記念公園）

こころの扉——「宗教者国際会議『平和のためのAI倫理』」川上直哉	2
国際会合「平和のためのAI倫理： ローマからの呼びかけにコミットする世界の宗教」	3～5
青年部会 KCRP及び諸先輩との交流会を開催	6
人身売買禁止タスクフォース主催『人間の尊厳を考える円卓会議 ～人身取引反対世界デーに向けて～』実施	7～8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8



『宗教者国際会議『平和のための AI 倫理』』

2024年7月9日(火)から10日(水)に、広島にて「平和のための AI 倫理」ローマからの呼びかけにコミットする世界の宗教」と題された国際会議が、教皇庁生命アカデミー、世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)日本委員会、アラブ首長国連邦のアブダビ平和フォーラム、イスラエル諸宗教関係首席ラビ委員会の四者共催の下、行われました。

2020年2月28日、フランシスコ教皇が「AI倫理に関するローマの呼びかけ」に署名し、2023年1月

WCRP日本委員会
活動本委員会
日キリス
石巻任担
主任

川上直哉



10日にローマで「Multi-religious signature of the Rome Call for AI Ethics」と題された国際会議が開催され、イスラム教・ユダヤ教・キリスト教の指導者と技術者が議論を交わしました。その会議の最後、「次はアジアだ」との声が上がり、今回の国際会議の開催に至ったのでした。私は「福島原子力発電所爆発事故の現場に立つ牧師」の立場で出席し、多くの実りを得ました。特に印象深く思われたことを、以下に三点、記します。
会場となった広島国際会議場の入り口は、平和記念公

園と原爆ドームを一望できる場所に続いています。その大切な場所に佇む方がおられました。お声がけし、あいさつし、名乗り合い、互いの宗教の様子を語り合う…そうした出会いに恵まれました。その方はDr. Brinder Singh Mahonさんというシーク教徒でした。私は初めて、シーク教の友人を得たのでした。

会議の中では、ふたつの「倫理」が交錯しながら模索されていたように思います。つまり「AIの倫理」と「AIを使う人間の倫理」です。この二つの議論は、今後、明確に区分けされなければならぬと思われました。金光教の三宅善信先生が「東洋においては、パソコンにも命を感じ取る。そのことを前提に、AIも捉え直せないか」と踏み込まれました。そして、黒住教の黒住宗道先生が「ことさらに言わなくても当然理解されるべき常識を、AIが身に着けることができる未来が、近い未来に到来するか」と問われ、会議に参加した技術者各位から「それは難しい」という趣旨の応答を引き出し、「そうであれば、まず議論すべきは、AIを使う人間の倫理の確立だ」と応じられました。ここに、この後に続くべき進路が示されていたと思われました。

そして、何よりも、舞台裏を担われた篠原事務局長以下スタッフの皆様に、深く感じ入りました。理不尽も多々あったはずですが、それを跳ね退けるチームワークと根性に触れることができましたことは、何よりも大きな収穫でした。

国際会合「平和のためのAI倫理：ローマからの呼びかけ」にコミットする世界の宗教

WCRP日本委員会は、教皇庁生命アカデミーとアブダビ平和フォーラム、イスラエル諸宗教関係首席ラビ委員会と共に、7月9日～10日広島市において「平和のためのAI倫理：ローマからの呼びかけ」にコミットする世界の宗教」を開催した。13カ国から宗教指導者や政治家、グローバルハイテク企業の代表者、学者ら150人が参加した。

この会合は、ローマ教皇が主導する教皇庁生命アカデミーが促進している「AI倫理のためのローマからの呼びかけ」へのさらなる賛同の輪を広げることを目的に開催された。この「ローマからの呼びかけ」と



は、アルゴリズムにおける倫理的開発（アルゴリズムックス）を促進するための文書であり、それは、人間の尊厳を守り、人類と地球の持続可能な発展のため

に、最先端技術であるAIの開発と運用において人類の共通善をその核心におき、誰ひとり差別することなく、また健全な地球社会の将来にわたる保全を、すべての地球市民と国際社会に要請するものである。具体的にはAI開発・運用において次の6つの原則を呼びかけている。

透明性…原則として、AIシステムは、説明可能でなければならぬ。

包摂性…AIは、すべての人のニーズを考慮し、すべての人が利益を享受できるものでなければならぬ。また、すべての個人がAIを通して自分自身を表現し、成長していくための最高の条件を享受できるものでなければならぬ。

責任…AIを設計し、展開する者は、責任と透明性をもって開発を進めなければならない。

公平性…偏見に基づいた開発や行動をせず、公平性と人間の尊厳を守らなければならない。

信頼性…AIシステムは、正確に動作しなければならぬ。

セキュリティとプライバシー…AIシステムは、安全に動作し、利用者のプライバシーを尊重しなければならない。

このローマからの呼びかけは、2020年2月28日、教皇庁生命アカデミー、マイ

クロソフト、IBM、国連食糧農業機関（FAO）、イタリア政府とともに欧州議会議長の出席のもとで開かれた署名式が実質的な開始となった。2023年1月にはローマにおいてキリスト教、イスラーム、ユダヤ教のアブラハムの3つの宗教による署名式がおこなわれ、その後、世界における大学や大手テクノロジー企業、宗教界に拡がっていった。そしてこのローマからの呼びかけを、さらにアジア、日本における宗教者などの賛同者を促進するために、この度、広島において開催された。

7月9日、本会合は4つの共催団体の代表者の挨拶から始まった。WCRP/RFP日本委員会理事長の戸松義晴師は、「WCRPの使命は、私たちが共有する精神的目標に基づき、

社会全体における個人や組織の平等と相互尊重を促すこと」であると語り、AIに関係する課題を認識し「すべての人を包摂し、相互尊重という





ブラッド・スミス マイクロソフト社社長

とができる」と述べた。イスラエル諸宗教関係首席ラビ委員会

使命を果たす」と力強く述べた。教皇庁生命アカデミー会長のヴェンチエンツォ・パリア大司教は、AIは、応用の可能性が無限に広がる素晴らしいツールであり、それが設計された瞬間からその可能性を良いことに役立てるよう導くことが必要と述べ、「これは私たちに共通の責任であり、この努力を共有していくことによって真の兄弟愛を再発見することができる」と語り、「広島という最も象徴的な場所です、私たちは平和を強く願います、テクノロジーが人々の間の平和と和解の原動力となるよう求める」と宣言した。アブダビ平和フォーラム会長のUAEファトワ評議会議長のシェイク・アブドラ・ビン・バイヤ師は、人工知能の発展には、権益や害悪、それに利益が入り混じるために、道徳的な健全性も認められるとし、協力や連帯などの集団的な努力と継続的な取り組みが必要であり、そうすることによって、「テクノロジーの成果がより寛容で平和な、そして良識ある世界を築くために活用されるという未来への道を開くこ

委員のラビ・エリエゼル・シムハ・ワイズ師は、「信仰を持つ個人として、私たちはAIの追求に道徳的明快さと倫理的誠実さを吹き込むという独自の責任があることを指摘し、「AIを単なる進歩のためのツールとしてではなく、神とのつながりを深め、精神的探究を強化するための道案内として活用していく」と述べた。

続いて、日本の岸田文雄首相が、「多様性を尊重しつつ、心をつなげて、安全安心で信頼できるAIに向けて取り組んでいきましょう」と同会合への期待を表明したビデオメッセージが紹介された。

その後、教皇庁立グレゴリアン大学のパオロ・ベナンティ教授（技術倫理学教授）が、「ローマからの呼びかけ」の意義について語り、アルゴリズム（algorithms）、すなわちAI倫理の開発と適用とは、人類の共通善を核心に置き人間の尊厳と地球の持続性を守ることであると説明した。

初日のセッション2では、大手ハイテク企業のリーダーから実際の技術業界において「ローマからの呼びかけ」の重要性について説明した。マイクロソフト社社長のブラッド・スミス氏は、「人類の歴史に深く刻み込まれた広島は、人類が生み出したテクノロジーをすべての人間と私たちの共通の家である地球に役立つものとしていくために、人の心を動かさずにはおかない影響力



慰霊碑に献花の後、黙祷する参加者

であると考えられる」と語り、「AIを活用してすべての人に包摂的な未来をもたらすという大きな野望に引き続き取り組んでいく」と述べた。

をもつ」と語った。IBMのシニア・バイスプレジデント兼リサーチ・ディレクターのダリオ・ギル氏は、「AIはすべての国、産業、価値体系に影響を及ぼすテクノロジーであり、その恩恵は全人類にインパクトを与えるはずである。IBMが、志を同じくする東洋の宗教指導者たちとともに『ローマからの呼びかけ』に新たにコミットメントできるのは大きな誇りである」と述べ、宗教界との連帯を誓った。Ciscoのアジア太平洋・日本・中国地域プレジデントのデイブ・ウェスト氏は「Ciscoは『ローマからの呼びかけ』に参加できたことを誇りに思う。できる限り幅広い分野から参加することが、責任あるAIへの世界的アプローチに向けた基本的なステップ



署名を行う代表者

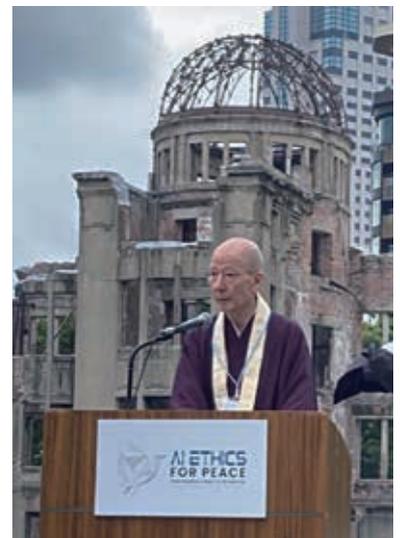
んだこと
や、まだ
討議され
ていない
課題など
について
活発に話
し合った。
翌7月
10日の会
合は、開
催地広島
との関連

また、清泉女子大学教授でWCRP日本委員会女性部会部会長の松井ケイティ氏がモデレーターを務めるセッション3では国連からの報告がなされた。アマンデーブ・シン・ギル国連事務総長技術特使は、「ローマからの呼びかけ」は、グローバルなAIガバナンスに必要な精神を具現化している。それは2024年9月国連で開催予定の未来サミットを控えた重要な時期に発表され、多様な宗教的視点から倫理的で人間中心のAIという共通のビジョンとしてまとめたものであり、国連事務総長の取り組みと一致するものである」と語った。セッション4「AI倫理に関する諸宗教対話…世界各宗教からの視点」では、参加者全員がグループ討議を交えつつ、この会合で学



その後、参加者は広島平和記念公園の慰霊碑を訪れ、犠牲者を偲んで花を捧げた。
10時30分からは同公園の「平和の時計塔」付近で「ローマからの呼びかけ」

における議論が焦点となった。初めに、原爆の被爆証言を聞いた。証言にたつた吉田章枝さんは、16歳の時に被爆し、絶望的な体験を繰り返しながらも、必死に生き抜いてきた経験を語り、二度とこのような悲惨な体験を誰にもして欲しくないと訴えた。この被爆証言によって参加者は、AIと戦争、AIと兵器の関係性について経験的な問題意識を全員で共有した。そして会合では、広島から国際社会に対して、すべての武力紛争の即時終結、核兵器をはじめとするあらゆる大量破壊兵器の使用禁止と廃絶、そしてAIが人類福祉にのみ使用され、生命を破壊し傷つけるために使用されることがないよう要請する「広島アピール」を採択した。



杉谷義純会長

署名式が行われた。「エリザベト音楽大学」(広島市)の学生によるフルート・カルテットによる素晴らしい演奏から始まった。ローマ教皇フランシスコはこの署名式に対し「人工知能の規制を検討する上で、民族や宗教の文化的豊かさがいかに手助けとなるかに気づくことが、技術革新を賢く管理しようとする皆さんの取り組みを成功させる鍵となるでしょう」とのメッセージを寄せた。また挨拶にたった日本の河野太郎デジタル大臣は、最先端技術であるAIが悪用され人類に被害をもたらすことがないよう、共に連帯していきましょうと力強く演説した。その後の署名式では16人の新たな署名者が加わった。WCRP日本委員会の杉谷義純会長は「『ローマからの呼びかけ』がより多くの人々に支持され、そして人類の共通善が常にAI社会においても中心的な行動規範として大切にされることを願い、祈る」と述べ、署名を行なった。

青年部会

KCRPP及び諸先輩との交流会を開催

青年部会は6月13日、立正佼成会付属佼成図書館視聴覚ホール（東京都杉並区）にてKCRP青年委員及び諸先輩との交流会を開催した。

青年部会では、コロナ禍を経て、今を生きる青年世代が求めていることやそれに見合った諸行事を考えるとともに、諸先輩から諸宗教協力での経験を学び、自身の宗派・信仰と照らし合わせて知見を総合的に研鑽する活動に力を入れている。

半年ぶりの交流となったKCRP青年委員とのオンライン交流会では、KCRP青年委員と



日韓青年リーダーのオンライン交流会の様子

年委員と日本委員会青年部会幹事がそれぞれ自己紹介を行うとともに、将来の日韓青年交流のあり方を意見交換し



先輩から世界の平和構築について学び、考える

で開催することを視野に検討することとなった。

続いて、諸先輩との交流会では、WCRP国際委員会副事務総長を務めた杉野恭一師（立正佼成会学林学長）を招き講演をいただいた。青年部会幹事など約20人の青年が参加したなか、これまでの諸宗教協力の体験や、世界の中の日本の青年宗教者の役割と可能性について語った。

杉野師はまず、宗教協力や和解を推進する中でポジティブな発展というものを認識し、平和というものを結果論ではなく過程的な見方で平和運動を推進していく重要性について語り、宗教青年だからこそできることをブランディングしていく必要がある

た。さらに、今後の日韓青年交流の内容などを検討するため、2025年度に日韓青年リーダー交流会を日本

と述べた。

また、WCRPならではの強みを紹介し、世界95カ国に諸宗教協力の母体や環境が整っていることに触れ、「紛争や環境問題、平和構築といった国際的問題に対して、青年たちは自分たちの考えや想いを伝えることが大切である」と強調した。

さらに日本の青年宗教者の役割として、制約を離し、突破力と行動力で創造力を生み出すことで平和構築を推進することが重要であると述べた。

出席者からは、世界の諸問題への平和構築についての考えや自身が感じる信仰や宗教者としての課題についてのわかちあいが



杉野師（前列右から2人目）を囲んで

行われるなど実りある交流会となった。次回は来年1月30日に神谷昌道師（ACRPシニアアドバイザー）より講演をいただく予定である。

人身売買禁止タスクフォース主催 『人間の尊厳を考える円卓会議』 人身取引反対世界デーに向けて

7月27日、人身売買禁止タスクフォースは『人間の尊厳を考える円卓会議』人身取引反対世界デーに向けてと題した円卓会議を実施した。会場となる大本東京本部・東京宣教センター（東京・台東区）のご神前に神道、キリスト教、仏教、イスラームなどの宗教者、学識者、国連職員、NGO関係者、WCRP賛助会員、一般市民など約50人が円卓を囲った。

円卓会議は、同月30日に国連が制定している「人身取引反対世界デー」に呼応する形で諸宗教の叡智を広く市民社会と共有することを目的として開催した。



円卓会議の様子

同タスクフォースメンバーの加瀬育代氏（立正佼成会渉外グループ）の総会あいさつにて宍野史生師（扶桑教管長／人身売買禁止タスク

フォース責任者）は、「人身売買によって弱者が涙を飲んでいるという真実を広めていく」意義を強く訴えかけた。受入教団あいさつでは、同タスクフォースメンバーの橋本伸作氏（大本東京本部東京宣教センター長）が参加者に向けて歓迎の言葉を述べた。

円卓会議には3団体からの登壇と2名のコメントーターが登壇をした。まず、細井梨世氏（タリタクム日本ユースアンバサダー／カトリック）が発題した。細井氏は看護師・助産師として働きながら、ユースアンバサダーの活動しており、小学生から高校生を対象に人身取引防止を題材とした出前授業を行っている。「人身売買は遠い国の話だけでなく、日本国内でも起きている」と語り、根絶には自己研鑽を怠らず「自分たちから変わる」、「サバイバーをジャッジせずに受け入れること」が必須であると述べた。

次いで、ティック・タム・チー師（大恩寺ベトナム寺院／仏教）が発題した。タム・チー師はベトナムで生まれ育ち、幼少期に出家した。日本の大学で博士課程を修了した後、大恩寺（埼玉・本庄市）を開山した。教えに基づき困窮する在日ベトナム人へ物心両面の救済活動を続け、本年には庭野平和賞奨励賞を受賞した。タム・チー師は日々の実践から、周りに困っている人がいたら

声を掛けることから始めることを呼び掛けた。「困っている人たちが自分の周りに温かい人がいる、と感じられるだけでも支えになる」と語り、「これが世界平和に繋がる」と力説した。

クレイシ・ハールン氏（日本イスラーム文化センター事務局長／イスラーム）は、貿易会社を経営しながら大塚マスジドの創設期から関わり、現在も運営や炊き出しなどをを行っている。ハールン氏は実際にモスクにかけこんできた難民の事例を紹介した。難民認定を待つ人たちは就労が認められていない。ある人は電車賃が無く、4時間以上かけて徒歩で大塚マスジドまで「食べ物がないから助けてほしい」と訪ねてきたという。他にも、就労先でパスポートを没収され、恐喝に遭いながらもなす術がないと駆け込んでくる外国人労働者は珍しくないと指摘した。また、同センターの中村和義氏も登壇し、『預言者ムハンマドの別れの説教』を用いながら人間の尊厳について言及した。

コメントーターとして、社会学を専門とする田卷松雄氏（宇都宮大学名誉教授）は、3名の登壇者がそれぞれの宗教の違いがありながらも救いを求める人たちへ門を開く姿勢を称え、「それぞれが大切に行っている教えがありながら、『宗派を超える』とはどの

ような状態であるのか」と投げかけ議論を深めた。

その後、ダニエラ・クノピック氏（UNICEF移民・難民プログラムオフィサー）が本円卓会議に対してビデオでコメントを寄せ、国内外の人身売買の状況、信仰を基盤とした団体との協働プログラムを紹介。

クノピック氏は人身売買の被害者の3分の1が子どもであると指摘。紛争によってさらに弱い立場に置かれる子どもたちの被害が増加していると語った。サバイバーの精神的または社会的な支えとして信仰を基盤とした団体の有用性を述べた。

質疑応答・ディスカッションでは、同タスクフォースメンバーの大西英玄師（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）がコーディネーターを務め、さらに同メンバーの弘田しずえ氏（ベリス・メルセス宣教修道女会）がアジアの諸宗教の特異性を例示し、社会正義のために行動を共にする重要性を述べた。

最後に「いのちの平等なる尊厳性」を脅かす人身売買に対



諸宗教・学術界からの登壇者

し、強く反対の意を表明するとともに、根絶に向けて祈りと対話と行動を捧げることが誓うアピール文を採択した（アピール文全文はHPに掲載）。

閉会あいさつでは同メンバーの小宮山延子氏が、『人身取引世界反対デー』を通して連携の意識を高めていくことを呼び掛けた。

円卓会議の参加者からは「人種、国籍、宗教の壁を越えて、『同じ人間として』苦しんでいる人びとのために自分には何ができるのか考えることが大切だと感じた」「宗教とは他者に開かれ、他者を大切にすることだ」という印象を強く持った。「初めは宗教間で考え方に違いがあるかと思っていたが、宗教が違っていても人身取引をなくそうという気持ちや、人間としての尊厳を守りたいという根底にある気持ちは共通しているのだと気づくことができた」といった感想が寄せられた。

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

雲奇（ドンキ）

7月に開催された「平和のためのAI倫理国際会合」、野外で開催された署名式のある2日目は、時おりザーッと雨に見舞われる不安定な天気である故か、暑さもいくぶん和らいだ。署名の際には雨には見舞われず、奇跡の曇り空であった。

WCRPの活動

《8月》

4日 比叡山宗教サミット37周年記念「世界平和祈りの集い」

6日 原爆死没者慰霊（広島）

8日 第52回原爆殉難者慰霊祭（長崎）

26日 ストップ！核依存タスクフォース第2回会合（オンライン）

28日 災害対応タスクフォース第2回会合（オンライン）

30日 第2回総合企画委員会（オンライン）

10日 第49回理事会（京都・龍谷大学大宮キャンパス／オンライン併用）

12日 気候危機タスクフォース学習会（オンライン）

24日 平和研究所第5回所員会議・研究会

30日 女性部会第2回会合（オンライン）

掲載内容の無断転載を禁ず。